



日本エネルギー経済研究所 プレCOPイベント

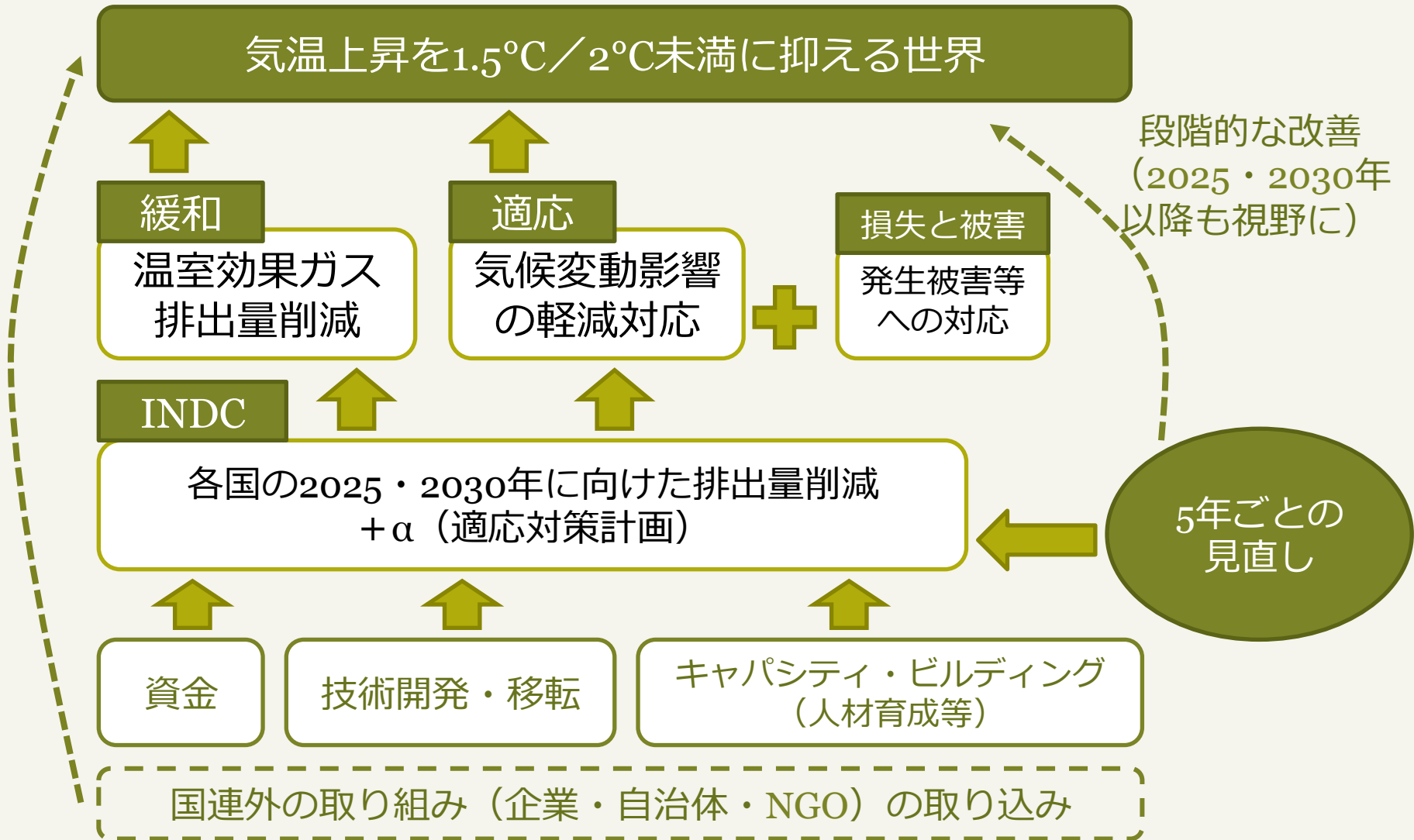
# COP21パリ合意のイメージ

WWFジャパン  
気候変動・エネルギーグループ リーダー  
山岸 尚之

2015年11月10日（火）



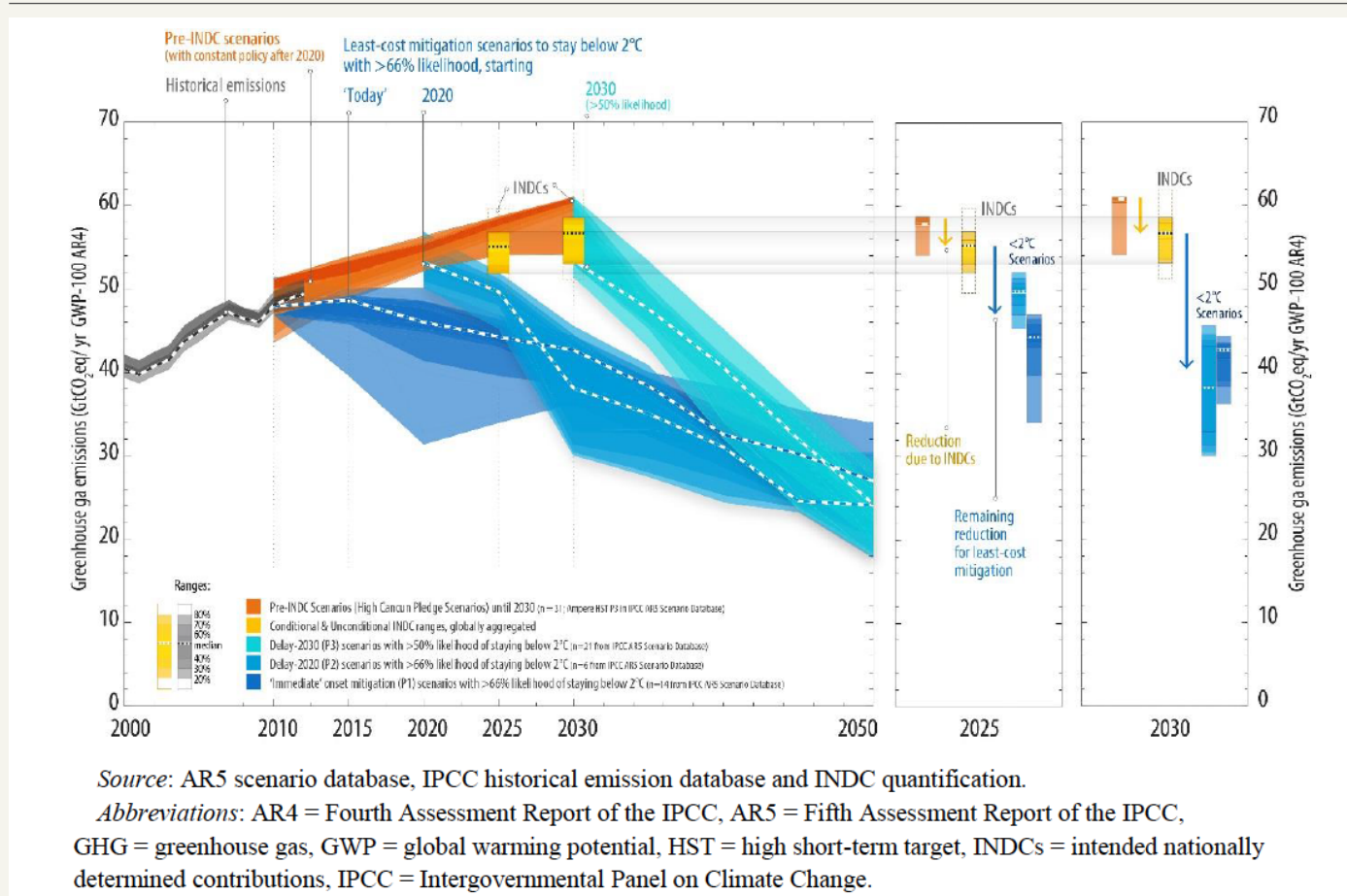
# パリ合意全体として目指そうとしているもの



※各国の議論を踏まえたおおよそのイメージ図。これで合意があるわけではない。



## 国連条約事務局によるINDCのまとめ

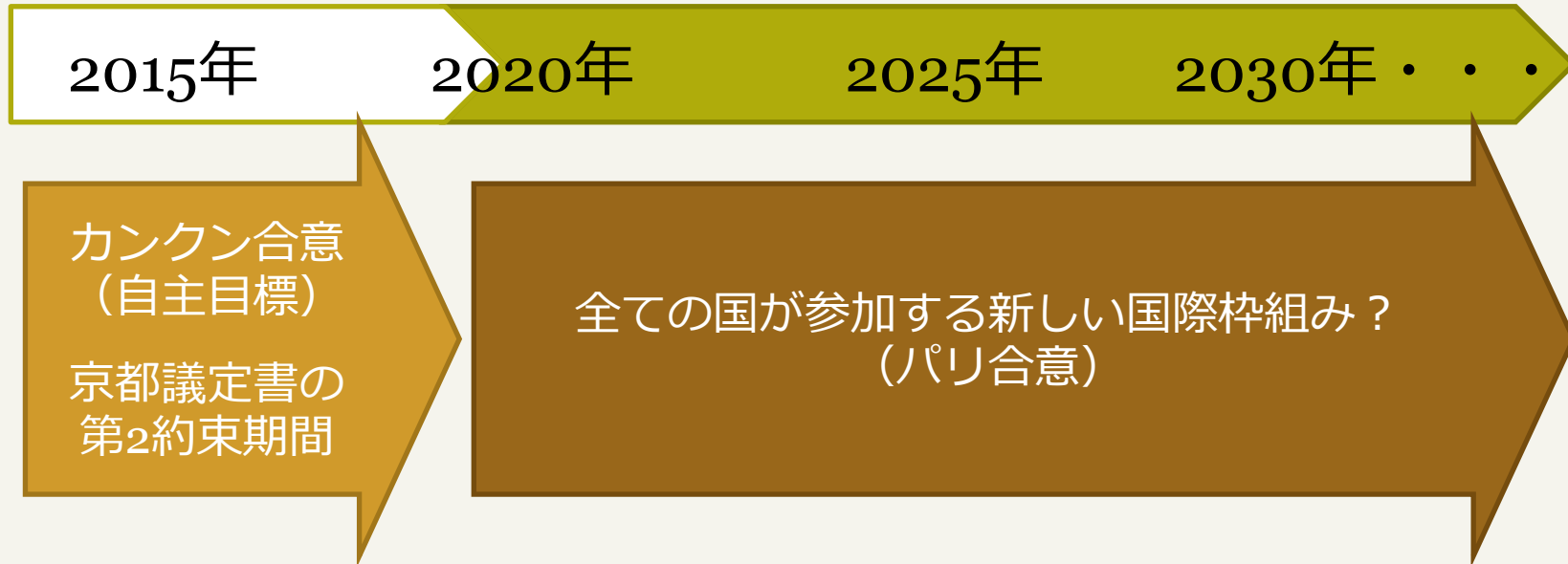


- 「2°C未満」に必要な排出削減量に対するギャップは、
- 2025年時点では年間87億トン（47～130億トン）
  - 2030年時点では年間151億トン（111～217億トン）



## 今の交渉論点と国際的な気候変動対策の体制

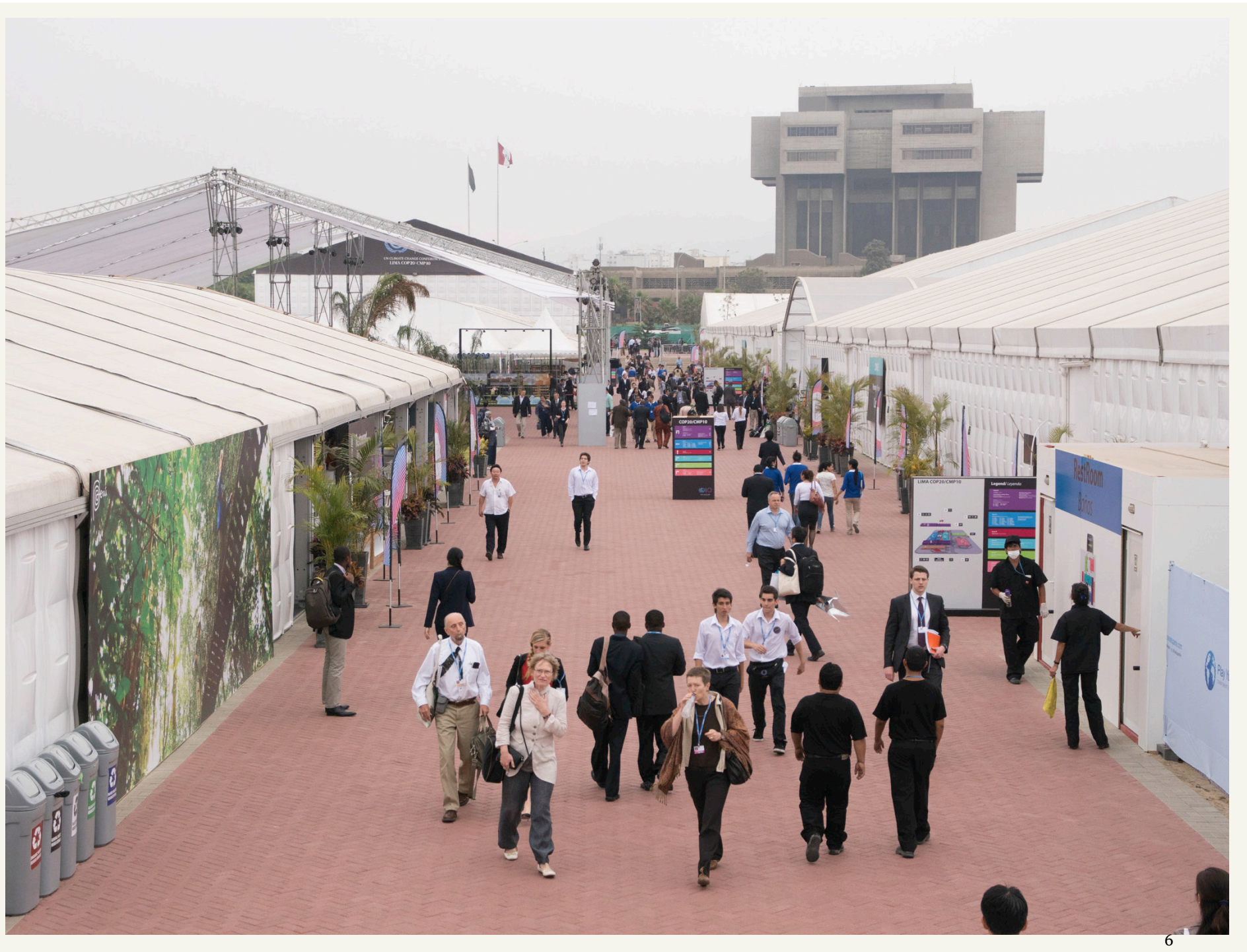
国際体制



交渉論点

ADP (ダーバン・プラットフォーム特別作業部会)	
ワークストリーム2	ワークストリーム1
<u>Pre-2020</u> 「ギャップ」を埋める	<u>Post-2020</u> 2020年以降の新しい国際枠組の構築















## 代表的な論点

---

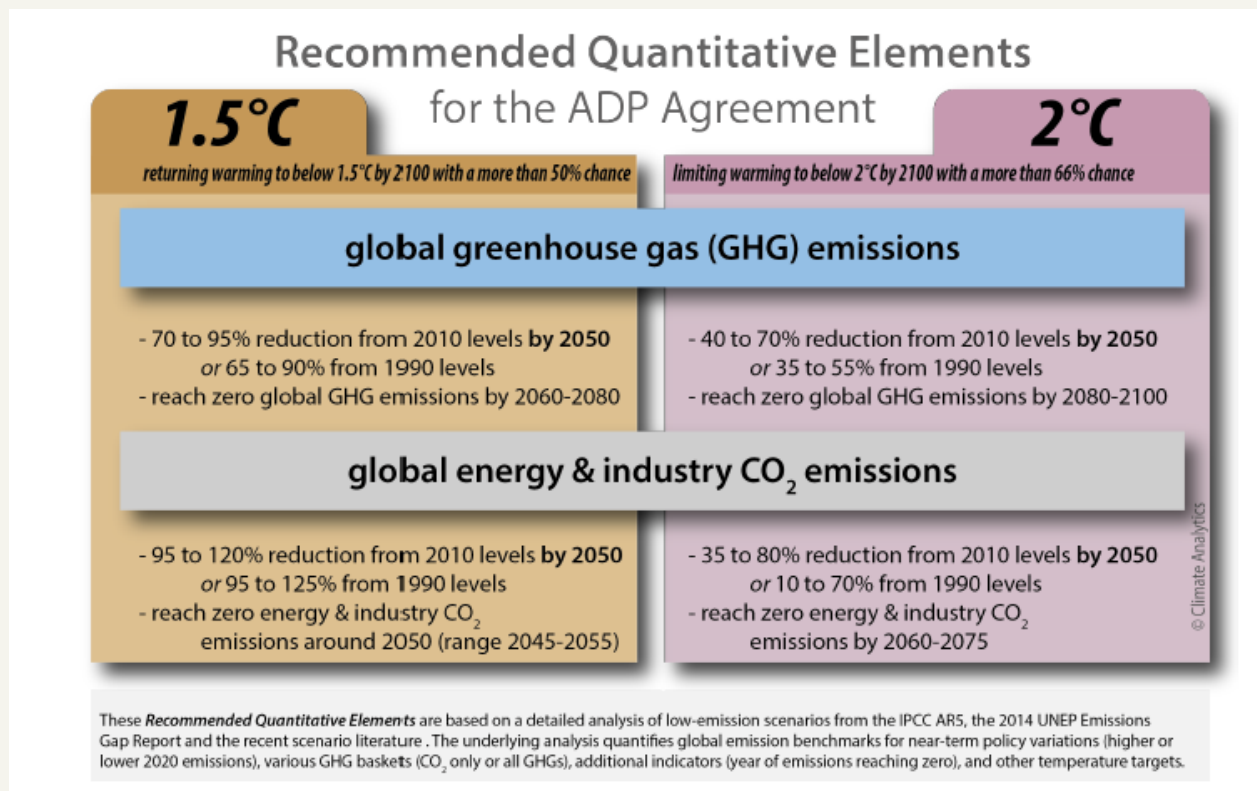
- 長期目標
- 「損失と被害 (loss and damage) 」  
の位置づけ
- 資金支援のあり方
- 差異化 (differentiation)
- 2025年 / 2030年以降も見据えた  
サイクルのあり方

※網羅的ではありません。



## 代表的な論点（1）長期目標

1.5°C/2°Cに抑えるためには、長期的にどのような排出量削減が必要なのか？



(出所) Rojeri, *et al.* (2015) Info sheet: Timetables for Zero Emissions and 2050 Emissions Reductions: State of the Science of the ADP Agreement. Climate Analytics.



## 代表的な論点（2）損失と被害

「適応」を超えて発生する「損失と被害」は、独立した対策分野として設定すべきか？

### 気候変動の対応策



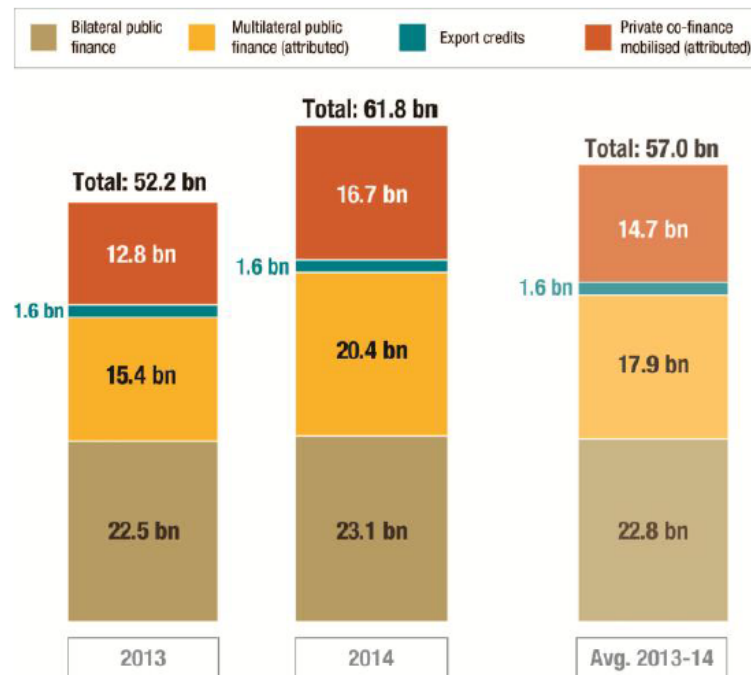
独立した分野か？ 適応の一分野か？



## 代表的論点（3）資金は誰が？どれくらい？

2010年に合意された金額は、「先進国は2020年までに年間1000億ドルを動員（mobilize）する」という目標。今はどれくらい？そして、2020年以降は？

Figure 1: Mobilised climate finance in 2013 and 2014, by funding source (USD billions)



2013年：522億ドル  
2014年：618億ドル  
平均：570億ドル

(出所)

OECD and Climate Policy Initiative (2015) *Climate Finance in 2013-14 and the USD 100 billion goal*. OECD/CPI. <http://www.oecd.org/environment/cc/OECD-CPI-Climate-Finance-Report.htm>



## 代表的論点（４）「差異化（differentiation）」

### 削減目標の形式

(e.g. 総量か原単位か、BAU比か、  
基準年比か)

### 削減目標の性質・義務

(e.g. 国によって義務かどうか違  
う？LDCは？)

### 削減目標に支援有無条件をつけるか？

(e.g. ここまでは独力で、ここからは支援  
があれば)

### サイクル

(e.g. 先進国・途上国で分  
ける？それとも？)

### 資金支援の義務・規模

(e.g. 誰がどれくらいの  
資金支援をするのか)

## 差異化

### 長期目標

(e.g. ピークの時期が違  
う？)

### 適応の扱い

(e.g. 途上国は適応行動  
計画だけでもよい？)

### 遵守における扱い

(e.g. 遵守制度の対象と  
なるのは？)



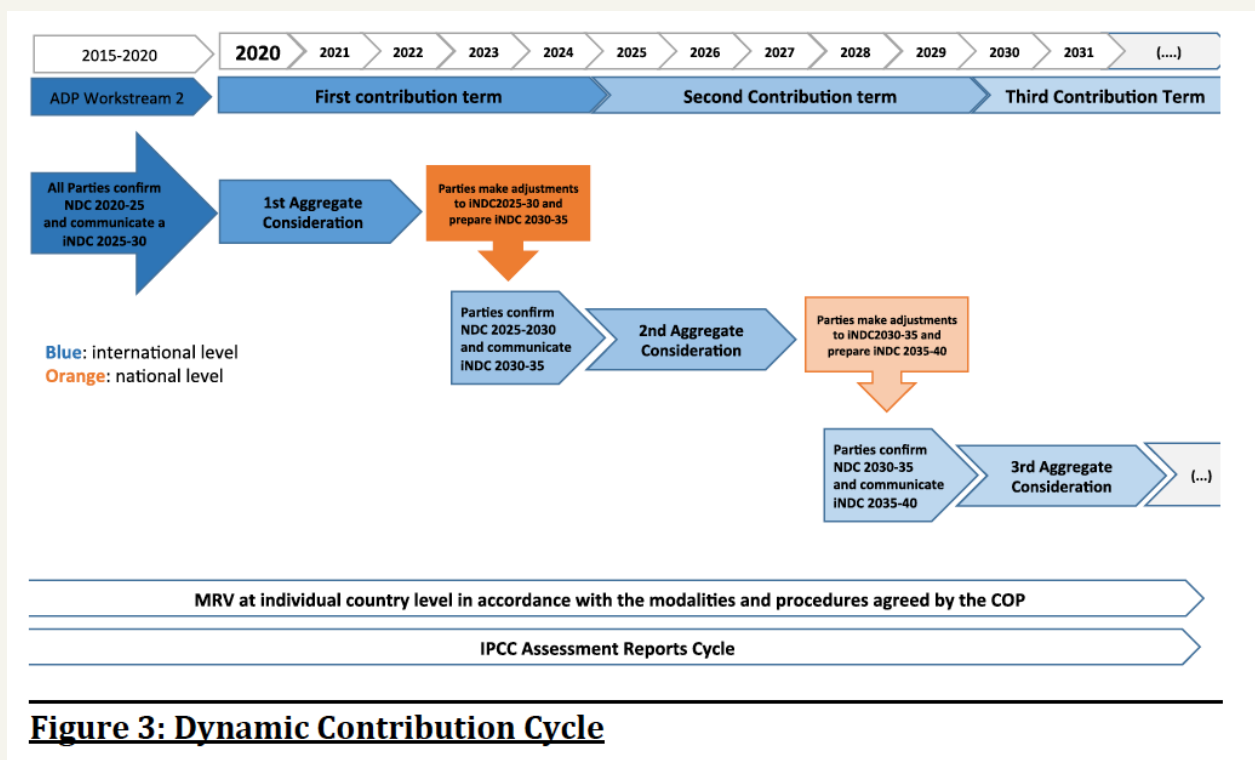
「先進国（developed countries ; Annex I Parties）」と  
「途上国（developing countries ; Non-Annex I Parties）」  
という言葉は使い続けるのか？



## 代表的論点（5） 継続的改善の仕組み・サイクル

どうやって、各国の取り組みを徐々に引き上げていくのか？

### ブラジル提案からの抜粋

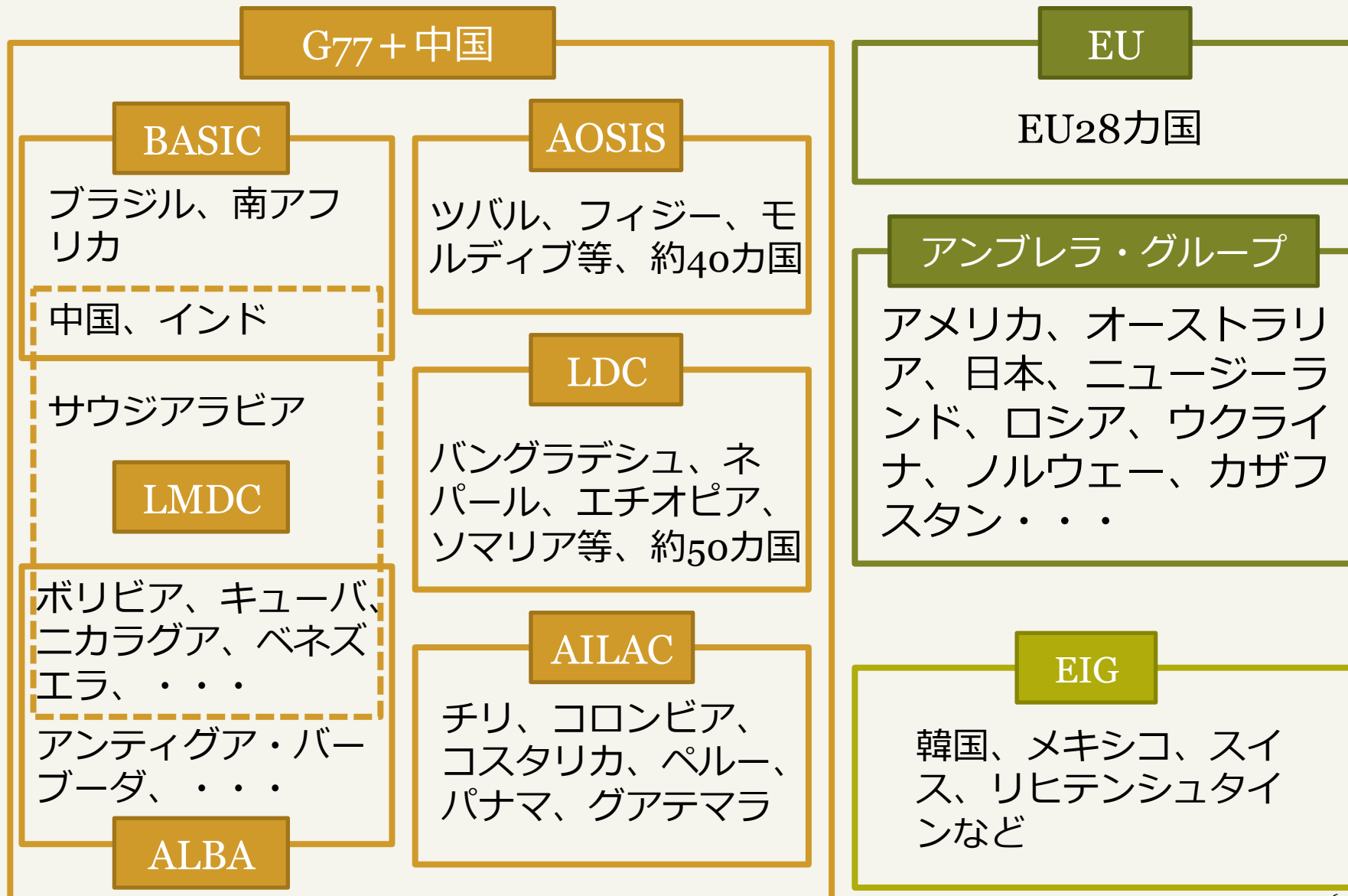


(出所) Government of Brazil. (2014) Views of Brazil on the elements of the new agreement under the Convention applicable to all parties. (Submission to ADP on 6 November 2014)



## 主要グループ

※この図は網羅的ではありません。また、一部、メンバー国の重なりを反映できておりません。







## 中身以外の論点

---

### ■ 法的性質

- 議定書？
- 法的拘束力の意味は？

### ■ 合意に入るもの／COP決定に入るもの

- 重要さの違いではない？

### ■ 正式な合意に入るものだけが成果ではない？

- リマ・パリ行動アジェンダ (LPAA)



## パリ合意に必要な事項

---

### ■ 長期目標

- 気温上昇抑制目標 / 排出量目標

### ■ 自己改善の仕組み

- 緩和目標の5年ごとの改善 / その他の分野の改善も
- レビューの仕組み

### ■ 「衡平性 (equity)」の確保

- 「先進国 vs 途上国」と「自己差異化」の間

### ■ 資金

- 2020年1000億ドルへの道筋
- 2020年以降の資金支援拡大の仕組み

### ■ 適応 + 損失と被害

- 損失と被害の明確な位置づけ
- 適応に関する目標

### ■ 2020年までの排出量削減の底上げ

- LPAAの位置づけ